

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2017年10月14日～2017年10月20日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドルでは下落したものの、円安の進展もあり、対円では上昇しました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

先週は特段の材料は無かったものの、トルコと米国が互いにビザ(査証)発給業務を停止している件について、お互いの外交団が協議を行うなど、関係改善の糸口が見えました。またトルコ政府は閣議において、2016年7月のクーデター未遂事件後に発令された非常事態宣言を、3カ月延長することを決定しました。国会での承認後、正式に延長されます。

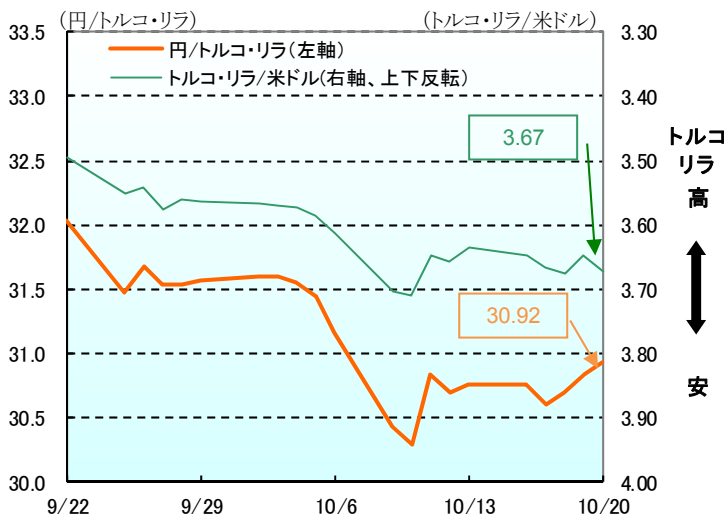
トルコ金融市場については、米国の上院で予算決議案が可決したことや次期FRB(米国連邦準備制度理事会)議長人事をめぐる思惑から米ドル高が進展したことがトルコ・リラの対米ドルでの下落要因となりました。また債券市場では、翌週に国債入札を控えていたことなどを背景に軟調な推移となりました。

【2】今週の見通し

今週は、金融政策委員会の開催が予定されています。事前の市場予想では主要政策金利については、後期流動性貸出金利を含めてすべて据え置かれる見込みとなっています。足元のインフレ率が加速していることもあり、トルコ中央銀行は、現在の金融政策を維持すると予想します。

またEU(欧州連合)首脳会議でトルコに拠出する支援金の削減が議題に上がったことや、米国がイランへの経済制裁を破ったトルコの銀行に対して罰金を科す方針を示したと報じられるなど、トルコの対外関係の悪化を示すニュースが多くなっている点に注意が必要と考えます。

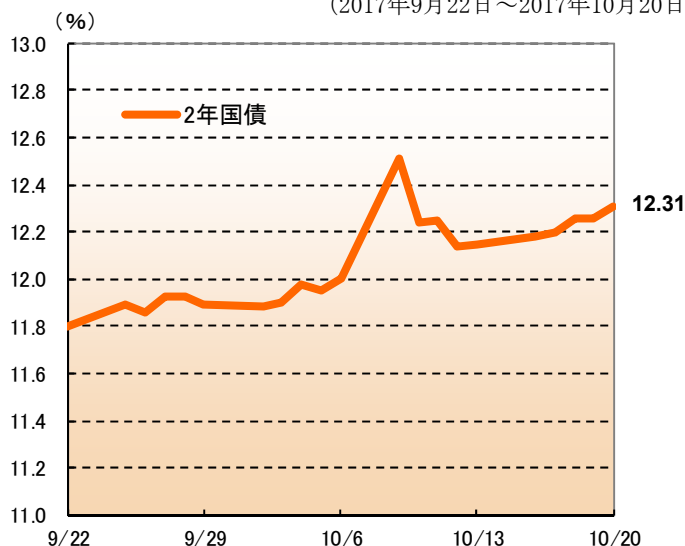
【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年9月22日～2017年10月20日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】

(2017年9月22日～2017年10月20日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>